

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 早寝早起き、朝ごはんをとる習慣を身に付け、親子で時間を守って登園するようになる。
- 生活や活動を進める中で、自分のすることが分かり、見通しをもったり、周囲の状況を判断して行動したりするようになる。
- 遊びや生活の中で保育者や友達と触れ合い、安定感をもって行動するようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎見通しをもって行動する → 見通しをもって生活する中で、自ら片付けをしたりトイレに行ったりしている。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆決められた時間に登園する

- ・1日の園生活を気持ちよくスタートさせ、クラスの一員として楽しく過ごすために、決められた時間に登園できるようにしましょう。
- ・生活や遊びの中で、早寝早起きをすることや、朝食をとることの大切さを知らせましょう。

☆生活の流れを予測して行動する

- ・個の活動や集団活動など、見通しをもって生活できるように、集団での活動の前や、活動と活動の間に、トイレ、水飲み、手洗い、うがいなどを自発的に済ませられるようにしましょう。
- ・様々な活動について、開始前にどの程度（どのくらいの時間）行うのか予告して、区切りを意識させましょう。また、終了前にはまもなく終了することを予告して、自ら活動を終えて、後始末ができるように意識付けましょう。

☆みんなで集う楽しさの体験を積み重ねる

- ・クラスのみんで集う機会をつくる際には、集う時間やタイミングについて、子どもの姿やクラスの状態を見て考えましょう。
- ・歌、クイズ、読み語り、言葉遊びなどを取り入れ、楽しさをみんなで共有する経験を積み重ねられるようにしましょう。
- ・その日の遊びや生活を振り返り、感じたことや考えたことについて言葉で伝えたり、友達の話を聞いたりして、翌日の活動に期待がもてるようにしましょう。



年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆見通しをもって自ら行動する

- ・クラスのみんで集い話し合う中で、翌日の活動を楽しみに期待をもったり、友達の気付きを共有したり、活動内容を確認したりできるようにしていきましょう。
- ・クラス全体で活動する時間や個人・グループで活動する時間など、意図的に活動時間を構成し、気持ちを切り替えて、それぞれの活動に集中できる習慣が身に付くようにしていきましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・早寝早起きの生活リズムを整え、朝食をとって9時までに登園するなど、4月以降の小学校での生活に順応できるよう準備しましょう。
- ・安全な通学への準備を行い、学校への親しみや期待をもつことができるよう、親子で通学路を歩く経験をしましょう。

### 【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 早寝早起き、朝ごはんをとる習慣を身に付け、安全に注意しながら、寄り道せずに登下校するようになる。
- 生活時程に慣れ、見通しをもって、チャイムの合図で次の活動に移行するための準備を整えるようになる。
- 担任や友達と関わりつつ、1日の生活リズムを意識して行動するようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- 見通しをもって行動する → 休み時間に、排泄、水飲み、次の時間の準備など、時程を意識することができる。

### 4月期から行う指導

#### ☆安全に登下校する

- ・登校時、通学路は生活指導部、学校組織で安全管理を行い、担任は教室で子どもを迎える。
- ・登校を渋っている子どもや不安を示している子どもを把握し、気になる子どもは保護者と連絡を取り合う。
- ・下校の準備のための時間は余裕をもち、交通安全の約束を確認する。集団下校時などに教職員が危険個所を伝えたり、横断の仕方の手本を示したりして安全に登下校できるように指導する。
- ・子どもの安心・安全の観点から、登下校の見守りを地域の方の協力を得て共に行えるようにする。

#### ☆1日の生活リズムをつくる

- ・見通しをもって生活できるよう、1日の時間の流れや朝の支度の手順などを視覚的に理解できるように掲示するなど工夫する。
- ・朝の時間に読み聞かせや体を動かすゲームなど、幼児期に親しんだ活動を取り入れて、安心して1日がスタートできるようにする。
- ・休み時間に必要なこと（次時の学習の準備、トイレ、水飲み、手洗い、うがいなど）を済ませるよう指導し、チャイムを意識して行動できるようにする。
- ・担任は、中休みには外遊びを上級生と一緒に言いながら、子どもの様子を見る。

### 5月期から取り入れる指導

#### ☆安全に登下校する

- ・学級活動や交通安全教室などを通して、道路の歩き方や交通マナーについて指導する。
- ・安全に注意しながら、一人または子ども同士の小集団で寄り道をせずに登下校するよう指導する。

#### ☆見通しをもって行動・生活する

- ・チャイムの意味を理解し、次の活動に移行する準備を整えられるよう声掛けをする。
- ・担任の指示がなくても、休み時間に必要なことを済ませる習慣を身に付けるようにする。
- ・休み時間と授業時間、給食などの小学校の時程について、気持ちを切り替えながら、少しずつ合わせて生活できるようにする。
- ・子どもが自分から次の活動の準備ができるように、時間割やその日の予定などについて分かりやすく示す。

### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・早寝早起きの生活リズムを整え、余裕をもって登校できるようにしましょう。
- ・通学路の歩き方や危険個所について親子で確認しましょう。
- ・時間を意識させて生活（または行動）することを日頃から心がけましょう。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 使った遊具や用具を元の場所へ片付け、身の回りの物を大切に扱うようになる。
- 自分の持ち物に愛着をもち、所定の場所に自分でしまい、整理するようになる。
- ハンカチやティッシュなどは自分で携帯し必要に応じて使用するようになる。
- 次の活動に興味をもち、靴の脱ぎ履き、洋服の脱ぎ着などを自らすすんで行うようになる。
- 保育室の清掃を友達や保育者と一緒に行うようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- 自分の持ち物を整理する → 自分の持ち物を大切に扱い、ロッカーや道具箱の中を整理している。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆持ち物の管理

- ・保育者が持ち物やロッカーをきちんと整理しているか確認を行い、整理の仕方を教えたり、子どもと共に考えたりしていきましょう。はじめは保育者の言葉かけに応じて整えようと行動しますが、徐々に自分で考えて整えられるようになることが大切です。タイミングを捉えて、一斉指導と個別指導を効果的に進めましょう。
- ・徐々に、はさみ、クレヨン、カラー帽子など、保育者が管理するものを減らし、子どもが自分の物として大切に扱うものを増やしていきましょう。
- ・ハンカチやティッシュを自分で携帯し、用途に合わせた使い方ができるようにしましょう。

☆靴の脱ぎ履きや衣服の脱ぎ着

- ・小学校では、靴箱の前でみんなが床に座り込んで靴の脱ぎ履きをすると、順番の待ち時間が生じ、集団で移動することが難しくなったり、通行の妨げになったりすることがあります。靴の脱ぎ履きはできるだけ立ったままできるように、個人差を考慮し、毎日の生活の中で習慣付くようにしましょう。また、脱いだ靴を揃えたり、靴箱に入れたりする習慣も併せて身に付けられるようにしましょう。
- ・衣服を脱ぎ着する、脱いだ服をたたむなどについて、自ら進んでできるようにしましょう。

☆清掃の仕方

- ・みんなで使う場所をきれいにすることで、心地よさを味わい、自分から生活の場を整えていこうとする気持ちを育てましょう。
- ・布巾や雑巾を洗ったり絞ったりする経験やほうきの使い方を知る経験も大切です。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆持ち物の管理②

- ・傘について、日々の生活や雨の日の園庭散策などを通して、水を切る、たたんで留めるなどの扱いに慣れ、傘立てに入れるなど、必要性を感じて一人で始末ができるようにしましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・自分の物という意識がもてるよう、登降園時に自分のカバンを持つことを習慣にしましょう。
- ・衣服の脱ぎ着やたたむ、立って靴を履く、脱ぐ、揃えるなど日常の経験の積み重ねを大切にしましょう。
- ・翌日の持ち物を意識できるよう、親子で準備しましょう。

### 【小学校生活を通して育ててほしい姿】

- 学校や学級で使った遊具や用具を元の場所へ片付けるようになる。
- 自分の持ち物を認識し、大事に使ったり、整理したりするようになる。
- ハンカチやティッシュなどは自分で携帯し必要に応じて使用するようになる。
- 靴の脱ぎ履き、洋服の脱ぎ着などは、一定時間内で手際よく行うようになる。
- 教室清掃を友達や担任と一緒にやるようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎**自分の持ち物を整理する** → 自分の持ち物やロッカー、机の中を整理し、宿題や提出物は所定の場所に忘れずに出すことができる。

### 4月期から行う指導

#### ☆身の回りの管理

- ・ランドセルから教科書やノートを出し入れし、宿題や提出物を提出することができるように、提出場所を一つ一つ確認していく。
- ・ロッカーや道具箱の整理整頓の仕方を分かりやすく示し、具体的に教える。
- ・自分の物を紛失しないために、落としたらすぐに拾ったり、戻したりすることが習慣になるようにする。
- ・ハンカチやティッシュを用途に合わせ、自らの判断で使うことができるようにする。
- ・靴の脱ぎ履きはできるだけ立ったままできるように、毎日の生活の中で習慣になるようにする。また、脱いだ靴を揃えたり、靴箱に入れたりする習慣も併せて身に付けるようにする。
- ・衣服を脱ぎ着する、脱いだ服をたたむなどについて、自ら進んで一定時間内にできるように、はじめは時間に余裕をもって行わせる。



### 5月期から取り入れる指導

#### ☆清掃の仕方

- ・みんなで使う場所をきれいにするこで、心地よさを味わい、自分から生活の場を整えていこうとする気持ちを育てる。
- ・雑巾を洗ったり絞ったりする動作や、ほうきの使い方については、手本を示して身に付けられるようにする。
- ・掃除の際は、ごみ拾いに加えて、机やロッカーなどの整理についても指導する。

#### ☆当番の仕事

- ・給食当番や掃除当番などの役割に責任をもち、時間を意識しながら行わせるために、一つ一つできたことを褒めて認めるようにする。

### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・起床や就寝の時間を決め、規則正しい生活を送ることができるようにしましょう。
- ・帰宅後は配付物や提出物、宿題の確認を一緒に行い、次の日の用意も一緒に行いましょう。
- ・衣服の脱ぎ着やたたむ、立って靴を履く、脱ぐ、揃えるなどは日常の経験の積み重ねが大切です。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 給食やお弁当を友達や先生と一緒に、マナーを意識して楽しんで食べるようになる。
- 箸を正しく持って食べるようになる。
- 食事の準備や片付けを友達と協力して行い、食事の終了時間を意識して食べるようになる。
- 様々な食材に興味をもち、苦手な食材も食べてみようとするようになる。
- 衣服や下着などを全部脱がずに排泄をし、身支度を整えるようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎**食事のマナーを意識して楽しんで食べる** → 友達や保育者と一緒に食べることの楽しさを味わいながら、マナーを意識して食べている。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆**食事のマナー**

- ・楽しくおいしく食事をしながら、食事のマナー（挨拶、食器を持つ・手を添える、口の中に食べ物が入っている時はしゃべらない、肘はつかないなど）が身に付くようにしましょう。
- ・食べ物や作ってくれた人への感謝の気持ちを育みましょう。

☆**箸を正しく使う**

- ・一人一人の状況を受け止め、個別に丁寧に、正しい箸の使い方を指導しましょう。例えば、子どもたちの好きなゲームの要素を取り入れて、大きさや材質の異なったものを箸でつまんで場所を移す競争をするなど、食事以外の場面での取り組みも工夫していきましょう。

☆**体と食の関係に関心をもつ**

- ・栄養士と連携して食育活動に取り組み、食物と体の関係や食材への関心を高め、食べる意欲を育てましょう。また、子どもが自分で食べられる適量に気付くようにしましょう。
- ・調理体験や野菜の栽培などを通して、食への関心をもたせていきましょう。
- ・食物アレルギーのある子どもへの配慮は重要です。

☆**「歯」の健康**

- ・永久歯が生えはじめる時期です。歯の役割や大切さを伝え、歯の健康への意識を高めましょう。
- ・よく噛んで食べる習慣が身に付くようにしましょう。また、食後の歯みがきを習慣にしてむし歯の予防に努めましょう。

☆**トイレの利用**

- ・活動の区切りや食事の前などに、自発的にトイレを済ます習慣が身に付くようにしましょう。
- ・衣服や下着など全部を脱がずに済ませ、身支度が整えられるように指導しましょう。
- ・小学校との交流授業や外部の施設に行く時などに和式トイレを使用する経験もしてみましょう。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆**食事の時間を意識できるようにする**

- ・食事への意欲をもち、友達や保育者と一緒に食べる楽しさを感じられるようにしましょう。
- ・子ども自身が食べられる適量を知ることができるよう言葉をかけましょう。
- ・その上で、給食の時間を意識して食べ終わられるよう、必要に応じて言葉をかけましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・登園前に余裕をもって朝食をとり、毎朝排便をする習慣を付けましょう。
- ・親子で一緒に楽しく食事をしながら、箸の持ち方を意識したり、食事のマナーを身に付けたりすることができるようにしましょう。
- ・「野菜から食べる」「野菜を3食しっかり食べる」など、栄養のバランスを考え、苦手な食材も食べてみようとするよう、働きかけましょう。
- ・食後の歯みがきを習慣付け、大人が仕上げみがきをしてあげることでむし歯を予防しましょう。

### 【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 給食を友達や担任と一緒に、マナーを身に付けて楽しんで食べるようになる。
- 献立に合った食具を選び、正しく持って食べることができるようになる。
- 食事の準備や片付けを友達と協力して行い、食事の終了時刻を意識して食べるようになる。
- 苦手な食材でも、食べようとする気持ちをもち、食べることができるようになる。
- 休み時間を意識して排泄をし、身支度を整えるようになる。

↓ 具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎食事のマナーを身に付けて楽しんで食べる → 食事のマナーを守りながら、友達や担任と一緒に楽しく食べることができる。

### 4月期から行う指導

#### ☆給食指導（1）

- ・おぼんの持ち方、食器の受け取り方や置き方を教える。
- ・献立に合った食具を考え、食事のマナー（食事の挨拶をしっかりとる、食具や食器は正しく持つ、音をたてて食べない、口の中に食べ物が入っている時はしゃべらない、肘はつかず正しい姿勢をとるなど）を守って食べることができるよう、手本を示しながら指導する。
- ・はじめは少なめの配膳で、足りない場合はおかわりをするようにして、自分の適量を把握させる。
- ・食物アレルギーのある子どもへの配慮に特に留意する。

#### ☆「歯」の健康

- ・よく噛んで食べる習慣が身に付くようにする。また、むし歯の予防の観点から、食後の歯みがきが定着するよう指導する。

#### ☆トイレの利用（1）

- ・トイレは休み時間内に行くことを意識させるとともに、トイレや手洗い場の使い方は実地で説明し、きれいに使用することができるようにする。
- ・休み時間以外にトイレに行きたくなった時は、自分で担任に伝えられるようにする。



### 5月期から取り入れる指導

#### ☆給食指導（2）

- ・楽しく、おいしく友達と食べられるために、食事のマナーの大切さを伝える。
- ・食べる時間を多くとれるよう、給食準備の時間を減らすことを意識して指導する。
- ・苦手な食材も食べてみようとする気持ちを育てるため、楽しく食べる中で食物と体の関係を話題にする。

#### ☆トイレの利用（2）

- ・学校生活に慣れてきた頃、休み時間中にトイレに行かなかったり、使い方が雑になったりすることがあるため、一人一人がきまりを守れるように確認する。

### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・登校前に余裕をもって朝食をとり、毎朝排便をする習慣を身に付けるようにしましょう。
- ・親子で一緒に楽しく食事をしながら、箸の持ち方を意識したり、マナーを身に付けたりすることができるようにしましょう。
- ・「野菜から食べる」「野菜を3食しっかり食べる」など、栄養のバランスを考え、好き嫌いをなく食べられるように励ましましょう。
- ・食後の歯みがきを習慣付け、大人が仕上げみがきをしてあげることでむし歯を予防しましょう。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 話をする人に興味をもち、集中して話を聞くようになる。
- 保育者の話を自分のこととして受け止め、自分なりに考えて行動するようになる。
- 自分のしたいことの実現に向けて、道具や素材の使い方を考えられるようになる。
- 掲示物に興味をもち、進んで見たり内容を理解したりするようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎自分のこととして受け止める → 話をする人の方を向いて、話を自分のこととして受け止めて聞き、行動している。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆話をしている人に興味をもって聞く

- ・手順や方法の説明は、子どもが興味をもって聞き内容が理解できるように、絵や図を活用して「聞くこと」「見ること」の活動を併せるなどの工夫をしましょう。
- ・「足を床につける」「背筋を伸ばす」など具体的に動作を示すなどし、姿勢を保つことの心地よさを知らせましょう。

☆活動に必要な用具の使い方

- ・活動に応じて必要な、はさみやクレヨン、色鉛筆、自由画帳などの道具を準備したり、様々な素材を試行錯誤しながら使ったりできるようにしましょう。
- ・子どもが必要に応じて取り出しやすく、片付けやすいように環境を整えましょう。

☆掲示物の工夫

- ・季節や社会事象（読書週間・オリンピック・宇宙飛行など）に関連した写真やカレンダー、ポスターなどを掲示しましょう。興味・関心をもって見るように情報発信の方法も工夫しましょう。
- ・伝統的な行事に関心をもち、季節や生活の変化に気付けるようにすることが大切です。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆説明を聞いて行動する習慣（1対多で聞き、見通しをもって自分なりに行動する）

- ・活動の前に、説明をする時間を意図的に設けましょう。内容や手順を聞いて、自ら考えながら活動を進めていく経験をする中で、話をよく聞くことの必要性が意識されていきます。
- ・説明の後に、内容や手順のポイントを聞き返して、理解しているか確認をすることも重要です。
- ・小学校との交流活動では、体験給食や学校行事への参加などを経験して、安心感や期待感が持てるようにしましょう。
- ・園からの連絡を口頭で家庭に伝えられるようにしましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・親子で話をする時間をつくり、興味をもって人の話を聞く態度を、家庭でも意識して生活できるようにしましょう。
- ・掲示やプリントを通して、明日の活動や連絡事項を保護者と子どもで確認し合い、忘れ物をしない習慣が身に付くようにしましょう。

### 【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 自分の机や椅子の位置や使い方が分かり、姿勢よく座り、前を向いて教師の話を聞くようになる。
- 教師の話を自分のこととして受け止め、理解して行動するようになる。
- 教科書を使用し、興味をもって学習するようになる。
- 時間割などの教室内の掲示を見て、自分から次時や翌日の準備をするようになる。

↓ 具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎自分のこととして受け止める → 前を向いて座り、教師の話を自分のこととして受け止めて聞き、行動できる。

### 4月期から行う指導

#### ☆姿勢よく座り、集中して話を聞く

- ・子どもたちに話をする時は子どもの興味を捉え、分かりやすい言葉、簡潔な表現で伝える。
- ・話を聞く時は、手に何も持たずに話している人の目を見て聞くことを意識させる。
- ・机、椅子は活動に応じて、生活班で向い合せになったり、床に座ったり、机を下げて椅子だけで話を聞くなど、場を工夫する。
- ・「よい姿勢」について絵や写真などを活用しながら指導する。

#### ☆学習に必要な用具の準備や片付け

- ・自分の机やロッカーの場所が分かるように名前シールを貼り、落ち着いて生活できるようにする。
- ・活動時間を意識しながら準備や片付けができるようにする。
- ・必要に応じて絵や写真でしまい方や片付け方を示し、自分で生活の場を整えるようにする。
- ・筆箱、教科書、ノート（下敷き）などの置き方や道具箱の整理については約束を決め、基本的な学習態度が身に付くように指導する。

#### ☆掲示物の工夫

- ・時間割などの教室内の掲示を見て自分で学習用具が準備できるようにする。
- ・誕生日や班の紹介、係の仕事などを掲示し、学校生活に親しみをもち、楽しみになる工夫をする。

### 5月期から取り入れる指導

#### ☆学習活動

- ・教科書の挿絵を拡大して黒板にはるなど、視覚的に分かりやすくする。
- ・徐々に時間割に合わせて教科書を持たせ、ノートは必要に応じて使用を開始する。
- ・ノートの使い方を知らせ、正しく使えているか一人一人確認する。
- ・「書く」活動では毎回座り方や姿勢などを問いかけ、短時間の練習を繰り返すようにする。

### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・机に向かう時はよい姿勢を意識できるよう言葉をかけましょう。
- ・子どもとともに時間割や連絡帳を見て翌日の学習の準備をし、忘れ物をしない習慣が身に付くようにしましょう。



【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 自分の体の状態に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を送るようになる。
- 体を動かすことに興味・関心を持ち、安全についての知恵や知識を身に付けるようになる。
- 進んで遊びに参加し、自分の体を十分に動かして遊ぶようになる。
- 1日の園生活を予測したり、遊びや生活の中で時間を意識したりして、見通しをもって行動するようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎自ら進んで体を動かして遊ぼうとする → ドッジボールやリレーに参加したり、短縄や長縄などに自分のペースで挑戦したりしている。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆子ども自らが健康で安全な生活を送る

- ・早寝早起き、しっかり朝食をとる、歯の健康を維持するなどの、良好な生活習慣が重要であることを、生活や遊びの中で繰り返し知らせ、子ども自身が意識できるようにしましょう。
- ・乳児期からの経験の積み重ねを基に、食べ物や病気、災害などについて健康や安全に関連付けて伝えましょう。状況に合わせて「何をしたらよいのか」「どうしたらよいのか」を子ども自身が必要性を感じて判断したり、見通しをもったりして行動する機会をつくるのが大切です。
- ・危険なことや遊具の安全な扱い方など子どもと一緒に考え、子ども自身が気付けるよう提案したり助言したりしましょう。

☆様々な動きを経験する

- ・生活や遊びの中で楽しく、体のバランスをとる動き（しゃがむ・立つ・起きる・回る・組む・渡る・ぶら下がるなど）や、体を移動する動き（歩く・走る・はねる・滑る・跳ぶ・登る・はうくぐるなど）や、操作する動き（持つ・握る・運ぶ・投げる・取る・蹴るなど）の様々な動きを経験させましょう。
- ・体・脳・筋肉をバランスよく発育させ、運動の効果を高めるため、子どもの成長に合わせた運動や遊び（かけっこ、鬼遊び、ボール遊びなど）を計画的に取り入れましょう。
- ・生活や遊びの中で、小さなものをつまむ、紐を結ぶ、雑巾を絞るなどの動きを意識したものを取り入れましょう。最初は、うまくいかないことも繰り返し経験することでうまくいくようになり、それを保育者や友達にも認められる経験が自信につながります。



年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆自分なりに挑戦する

- ・ボールや短縄・長縄など、自分のペースで挑戦したり、繰り返し行ったりできる遊具や用具を常時、準備しておきましょう。挑戦に対する保育者の励ましとめあてを達成したことへの喜びが、次の意欲を生みます。

☆見通しをもって自ら行動する【再掲】

→ p 8 参照

☆見通しをもって生活する

- ・卒園に向かってしなければいけないこと、したいことなど、子どもたちで課題を見つけられるようにし、卒園までの日々の活動に見通しがもてるようにしましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・毎日、元気に過ごせるように食事や睡眠を整えましょう。
- ・歩く、走る、重いものを持つ、紐を結ぶ、解く、物を揃える、たたむ、絞る、ひねるなど、体を使った様々な動作を意識した活動を経験させましょう。

### 【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 自分の体の状態に関心もち、自ら健康で安全な生活を送るようになる。
- 体を動かす楽しさや心地よさを味わいながら、きまりを守って仲良く遊ぶようになる。
- 運動に積極的に取り組むようになる。
- 時間割を含めた生活の流れが分かるようになり、次の活動を考えて準備するようになる。

↓ 具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎自ら進んで運動しようとする → 体育の授業や休み時間、運動会の練習などで、全力で走ったり、集団活動を楽しんだり、進んで体を動かすことに取り組める。

### 4月期から行う指導

#### ☆子ども自らが健康と安全に気を付ける

- ・健康に過ごすために、食事や睡眠、排泄などの生活習慣が重要であることを生活や学習を通して知らせ、子ども自身が意識できるようにする。
- ・子どもたちの幼児期の経験を引き出しながら、子ども自身の経験からの気づきを大切にしつつ、食べ物や病気、災害などについて健康や安全に関連付けて指導する。
- ・安全に気を付けて体を動かせるように、子どもたちに遊具を使う際の注意を考えたり、ルールを作ったりさせる。

#### ☆体を動かす楽しさや心地よさを味わう

- ・体育の授業や休み時間などに進んで体を動かせるように、校庭探検などの際に、校庭にある遊具の使い方や遊び方を知らせる。
- ・体のバランスをとる、移動する、用具を操作する、力試しをするなど、多様な動きを経験させる。
- ・きまりを守り、誰とでも仲良く遊べるように声を掛ける。



### 5月期から取り入れる指導

#### ☆意欲的に運動しようとする気持ちを高める

- ・運動会の練習では、全力で走ったり、団体で動いたりする楽しさが味わえるようにする。
- ・スポーツテストでは、様々な動きを通してバランスよく体を動かすことができるようにする。
- ・安全な活動のために集団行動が必要であることを、活動を通して伝える。

#### ☆見通しをもって行動・生活する【再掲】

→ p 9 参照

#### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・子どもが自分から楽しく体を動かせるように、生活リズムを整えましょう。
- ・毎日、元気に過ごせるように食事や睡眠を整えましょう。
- ・歩く、走る、重いものを持つ、紐を結ぶ、解く、物を揃える、たたむ、絞る、ひねるなど、体を使った様々な動作を意識した活動を経験させましょう。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 自分の力でやってみようとする気持ちをもって、難しいことにも挑戦し、考えたり工夫したりしながら、あきらめずにやり遂げ、達成感を味わうようになる。
- 失敗を乗り越えてやり遂げることで満足感を味わい、自信をもって行動するようになる。
- 自分がしなければいけないことを自覚して行動するようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎**自信をもって行動する** → こま回しや鉄棒、製作などに積極的に取り組み、できなくてもあきらめずに挑戦している。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆園生活を楽しむ

- ・保育者などとの信頼関係を基盤に、自分の力で様々な活動に取り組めるように、子どもたちと一緒に遊びの場の設定や遊具を選定するなど、子どもたちの身近な環境を整えましょう。
- ・クラス全体やグループでの活動に取り組む中で、一人一人が互いのよさを認め合ったり、励まし合ったりするよう援助しましょう。場合によってはそうした姿を仲間やクラス全体に広めましょう。子ども同士が思いやりをもったり、共感したりしながらやり遂げられるように援助しましょう。

☆自分の力で行動する

- ・友達関係が深まると、子ども同士の対立や葛藤も多くなります。子ども自身で解決にたどり着けるよう、その過程を大切に、言動を見守りながらタイミングよく援助しましょう。
- ・子どもは、生活や遊びの中で様々なことに挑戦し、失敗をくり返す中でもあきらめずにやり遂げることで、自信をもって行動するようになります。失敗した時には、保育者はまわりの子どもたちと一緒に励ましたり、力を貸したりして、あたたかな対応をしていきましょう。

☆自分でやってみようとする気持ちをもつ

- ・「(少し難しいと思うことでも)やってみたらできた」という達成感や満足感を味わう体験(なわとび、こま回し、鉄棒、遊びに使いたいものの製作など)ができるようにしましょう。その際、一人一人の置かれている状況や発達などを理解したうえで、それぞれに適した援助のあり方を考えましょう。
- ・自分のなすべきことを自覚して行動できるように、その日やその時に必要なことなどを、どの子どもにも理解しやすいように視覚的に提示するなどの工夫をしましょう。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆年長者としての自覚をもつ

- ・年長児として園全体の中で担ってきた当番活動などの役割を、5歳児から4歳児に伝える場をつくりましょう。自分たちの成長を感じ、年長児としての自信や誇りにつながります。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・子どもは、相手に喜ばれたり、よくやってくれたと感謝されたりすることによって、自分が有用な人間であることを自覚します。家庭でも、仕事を分担したり手伝いをしたりするなどの経験を多くもちましょう。

### 【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 自分でできることは自分でやろうと、積極的に取り組むようになる。
- 生活や学習において、失敗しても意欲をもってやり遂げ、自分に自信をもって行動するようになる。
- 生活や学習の課題を、自分のこととして受け止めるようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に見取りましょう。

- 自信をもって行動する** → 自分のことは自分でしようと、試行錯誤しながら粘り強く取り組むことができる。

### 4月期から行う指導

#### ☆小学校生活への期待をもつ

- ・1年生として、みんなが同じスタートラインにいることを感じ、新しい気持ちで学校生活に「ドキドキ感」や「ワクワク感」がもてるように環境を整える。
- ・挨拶、返事、持ち物の整理などの小さなことでも、自分でできたことを褒め、自己肯定感を高められるようにする。

#### ☆自分の力で行動する

- ・「できなかった」ことが「できるようになってきた」「分かった」と思える経験を重ねられよう留意する。
- ・受け身でいるのではなく、まずは自分のことは自分で行う気持ちをもつこと、そして、困っている時は友達や担任に伝えることの必要性を知らせる。学級の一員としての自覚をもてるようにする。

### 5月期から取り入れる指導

#### ☆友達との関わりを大切にす

- ・友達関係が深まると子ども同士のいざこざも多くなることから、子ども自身で解決にたどり着けるよう、その過程を大切にし、言動を見守りながらタイミングよく支援する。
- ・学級全体やグループでの活動に取り組む中で、一人一人が互いのよさを認め合ったり、励まし合ったりできるように働きかける。

#### ☆自信をもって行動する

- ・子どもは、生活や遊びの中で様々なことに挑戦し、失敗をくり返す中でもあきらめずにやり遂げることで、自信をもって行動できるようになるため、担任は、できないけれどもやってみたい、試行錯誤しながらも繰り返し取り組むといった姿を認めながら指導する。
- ・その日やその時に必要なことなどを、どの子どもにも理解しやすいように視覚的に提示するなどの工夫をすることで、子どもが自分のなすべきことを自覚して行動できるようにする。

### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・できないことを責めるのではなく、できたことを褒めてあげましょう。
- ・「挑戦」する気持ちが育まれるよう、励ましの言葉や失敗しても大丈夫なことを伝えましょう。
- ・学校はいろいろな友達がいる中で、みんなで協力して生活する場であることを伝えましょう。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合うようになる。
- 自分の考えを相手に分かるように様々な方法で表現し、伝えるようになる。
- 目的に向かって、友達と協力してやり遂げる喜びを感じるようになる。
- クラスやグループの活動の中で自分の力を発揮し、互いのよさを認め合えるようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎**友達と互いに認め合う関係を築く** → 生活や遊びの中で、自分と違う友達の思いや考えに気付いたり、自分の思いを言葉で伝えたりすることを通して、友達と協力して取り組もうとしている。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆育ち合う関係づくり

- ・全ての子どもが、国籍や文化の違い、特別な配慮を必要とするなどの多様性を生活や遊びを通して受け止め、共に育ち合うためには、子どもが安心して生活できる環境が必要です。
- ・保育者は一人一人の子どもの発達の過程や心身の状況を把握し、個に応じた関わりと集団活動の両面を大切に、教育・保育を展開しましょう。

☆自分の気持ちを伝える（p24、p32も参照）

- ・自分の思いや考えをグループやクラスの中で、友達に分かるように話すことができるよう援助しましょう。感じたことや発見したことを自分なりに伝えようとすることや、友達の話聞き自分と違う考えがあることに気付くことが大切です。保育者の問いかけや共感的な関わりなどが子どもたちに新たな気づきを促します。
- ・思わず友達や先生に伝えたい、心を揺さぶる体験が得られる教育・保育をめざしましょう。
- ・遊びの中での力関係に留意し、一人一人が思いを出せる対等な友達関係が築けるような配慮をしましょう。

☆協力してやり遂げる

- ・グループ製作や行事での係活動、劇遊びや合奏など友達と協力して取り組む機会をつくりまします。
- ・共通の目的の達成に向け、友達と考えを出し合って、試行錯誤しながら、やり遂げた喜びや満足感を体験することが大切です。そのため、活動について、内容や集団の規模、時期、グループ構成、終了時の評価方法などを、年間を通して、意図的・計画的に構築していくことが必要です。

☆葛藤する経験をする

- ・グループやクラス全体での活動について、結果だけではなく、つまづきを乗り越えたり、繰り返し努力したりした過程の大切さに気付かせましょう。活動を通して起きた友達との対立や葛藤は大切な体験として捉えます。
- ・トラブルの解決に向けては、個別に関わるもの、クラス全体に紹介して一緒に考えるとよいものなどを区別し、どうしたら折り合えると思うか、子どもの考えを引き出しながら双方の納得へ導きましょう。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆友達のよさに気づき、互いに認め合う関係（p32も参照）

- ・個々のよさや得意なことがクラスの中で認め合える機会を意図的につくり、互いに刺激し合い、育ち合えるクラス集団をつくりましょう。

家庭へはこのようにことを発信していきましょう

- ・年長組になって行事をリードすることが多くなります。友達と一緒に頑張った時、やり遂げた時には大いに認め、子ども自身が自分の力を発揮した喜びを感じられるようにしましょう。

### 【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 友達に関心をもち、自ら関わりを広げようとするようになる。
- 自分の思いや考えを、相手に伝わるように自分の言葉で伝えるようになる。
- 学習の中での発見や課題を解決した喜びを友達と共有するようになる。
- グループ学習を通して、相手の考えを聞き、様々な考えがあることを知ったり、**自分以外の考えを尊重したり**するようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎**自分以外の考えを尊重し合う** → 係活動やグループ活動で、友達と意見を交わす中で、新しい考えを生み出したり、工夫して取り組んだりできる。

### 4月期から行う指導

#### ☆集団生活を楽しむ力の基礎

- ・新しい集団の中で、挨拶、返事、丁寧な言葉遣いなど基本的なコミュニケーションスキルを使う場を多く設定する。
- ・話をする時や他者の話を聞く時のルールを子どもと一緒に決める。

#### ☆自分の気持ちを伝える（p25、p33も参照）

- ・教師の共感的な声かけや励ましが子どもの自信につながることから、自分の思いや考えを言葉で表現できるよう、自己紹介や1日の振り返りの時間など、ペアやグループの中で楽しく伝え合う時間を設ける。
- ・遊びや学習を通して、担任とのやりとりではなく、子ども間での関わりで解決できたり学習が深まったりする経験ができるよう留意して指導する。
- ・学級内で起きたトラブルは、個人の話し合いで解決するだけでなく、必要に応じて学級全体に伝え、一緒に考えることで、気持ちを伝えることの大切さに気付けるようにする。



### 5月期から取り入れる指導

#### ☆自分以外の考えを尊重し、互いに力を発揮し合う関係（p33も参照）

- ・ルールのある遊びや活動を通して、みんなで活動することの楽しさやルールを守ることの大切さに気付けるようにする。
- ・係活動を通して、同じグループの友達と考えを出し合い係の目標や活動内容、役割分担を自分たちで決めるようにする。
- ・上級生との関わりを楽しみ、自分でできることに挑戦するように促す。
- ・「1年生を迎える会」「運動会」などの学校行事に取り組む中で、自分のよさを発揮し、みんなで作り上げていくことの楽しさに気付けるようにする。

### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・入学当初は、新しい環境の中で、自分の考えを表現することに緊張を感じてしまうこともあります。家庭でも「自分を受け止めてもらえる」と思えるような雰囲気づくりが大切です。
- ・結果だけではなく、自分の考えを言葉で伝えようとする過程を見守り、自信をもてるようにすることで「話す・聞く力」が身に付きます。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 友達との関わりを深め、相手の立場を理解するようになる。
- してよいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動するようになる。
- 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守ろうとするようになる。
- 危険な場所や遊び方に気づき、判断して行動するようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎してよいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する → 生活や遊びの中にきまり(トイレの使い方や鬼遊びのルール、人を傷つける言動はしないなど)があることを知り、守ろうとしている。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆大人との信頼関係

- ・「ありがとう」「よくできたね」など、子どもの気づきや行動を認め、子ども自身が自分の行いに対して肯定感を持てるような経験を積み重ねていきましょう。

☆きまりの必要性に気付く

- ・「してよいことや悪いこと」を自分で考える場や友達と考え合う機会をつくりましょう。
- ・体験を通して、きまりを守ると友達と楽しく過ごせることに気づき、それを守ろうと自分の意思で判断して行動する中で、規範意識の芽生えを培っていきましょう。
- ・子どもたちが身に付けていくマナーやルールは、身近な大人が手本を示すことが大切です。
- ・「自ら進んで挨拶をする」「名前を呼ばれたら返事をする」などの習慣が身に付くようにしましょう。

☆危険なことを自ら判断する

- ・危険な場所や遊び方について、様々な場面を捉えて「なぜ、危険なのか。安全にするためには、どうしたらよいのか」などについて話し合う機会をつくりましょう。
- ・散歩や園外保育の機会に、交通安全や公共の場でのルールを守って行動できるよう意識を高めましょう。
- ・不審者から回避できる力を身に付けられるよう、警察から指導(「いかのおすし」の話やビデオ視聴など)を受けたり、保育者が紙芝居や絵本を活用したりして指導していきましょう。



年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆子ども同士での約束事や課題解決の過程

- ・友達の考えやアイデアに耳を傾け共感したり、意見を言い合ったりするとともに、意見を調整しながら仲間と共に活動を進めていく過程を重視しましょう。
- ・友達と一緒に遊びを作り出す中で、必要に応じて新たなルールを作ったり、自分たちで考えたルールを守って遊んだりする経験を大切にしましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・「保護者が子どもの話を最後まで聞くこと」「子どもに保護者の話を最後まで聞かせること」を日頃から心がけましょう。
- ・入学後は一人で登校することを意識し、交通ルールを守って安全に行動できるようにしましょう。
- ・挨拶や名前を呼ばれたら返事をするなど、保護者も子どもと共に実践するようにしましょう。

### 【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 相手の気持ちを考えたり、自分の行動を振り返ったりするなどして、楽しく学校生活が送れるようになる。
- してよいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動するようになる。
- きまりを理解して、自分で善悪を判断し行動することができるようになる。
- 危険な場所や遊び方に気づき、判断して行動するようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎してよいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する → 学校生活の中のきまり(休み時間の過ごし方や廊下の歩き方、人を傷つける言動はしないなど)があることを理解し、守ることができる。

### 4月期から行う指導

#### ☆担任や友達との信頼関係

- ・出席を取りながら一人一人の返事を受け、気持ちよく返事ができたことを褒める。
- ・毎日担任自ら朝の挨拶をし、気持ちのよい挨拶が返せるようにする。
- ・給食の配膳時や提出物の持参時などに、順番を守って並ぶことが定着するよう指導する。
- ・してはいけないことを理解させるため、悪口や暴力など人を傷つける行動について確認する。

#### ☆学校生活のきまりを理解し、実施する

- ・トイレや水飲み場などの使い方、校庭での遊び方など、実地で使い方を説明し、正しく使用できるまでは繰り返し確認する。

#### ☆安全に登下校する【再掲】

→ p 9 参照

### 5月期から取り入れる指導

#### ☆楽しい学校生活をおくる

- ・子どもの自信につながるよう、心地よい挨拶の体験を伝え合い、自分から挨拶ができた時は褒める。
- ・友達から言われてうれしい言葉や嫌な言葉などについて話し合い、ロールプレイなどを活用して使うべき言葉遣いの指導を行い、よりよい人間関係の基礎を育てる。
- ・一緒に解決に向けて考えられる学級を作るため、学校生活の中で、困ったこと、分からないこと、間違ってしまったことなどを伝え合えるようにする。

#### ☆学校生活のきまりを理解するとともに、危険な場所や遊び方に気づき、判断して行動する

- ・危険な場所や行動について、様々な場面をとらえて、子ども自身が考える機会を設ける。
- ・安全な学校生活が送れるように廊下歩行時の約束を確認し、繰り返し指導する。
- ・校内のきまりや安全については、実地で一つ一つ確認するなど、分かりやすく伝える工夫をする。

#### ☆安全に登下校する【再掲】

→ p 9 参照

### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・名前を呼ばれた時の返事、朝の挨拶や食事前の挨拶などについて、家庭内でも保護者の方と一緒にいきましょう。
- ・「叱られるからダメ」ではなく、どうしてきまりがあるのか家庭でも話し合ってみましょう。



【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 担任との信頼関係を深め、自信をもって生活するようになる。
- 公共の施設の利用などを経験して、場所や状況に応じた行動をとったり、大切に利用したりするようになる。
- したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりするようになる。
- 高齢者をはじめ地域の人々など、自分の生活に関係の深い様々な人に親しみをもつようになる。
- 好奇心や探究心が高まり、興味をもったことについて身近にあるものから情報を得て、活用するようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎担任との信頼関係を築き、思いを伝える → 自分の思いや分からないことを、自ら担任に伝えたり、尋ねたりしている。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆担任との関わり

- ・保育者が子どもの発言を肯定的に受け止め、一つ一つできるようになったことを褒めましょう。
- ・子どもにとってなすべきことが明確になるよう指示の方法を工夫しましょう。

☆身近な人との関わり

- ・伝達や届け物など、担任以外の職員とのコミュニケーションを図る機会を意図的につくりましょう。
- ・年少児や小・中学生、高齢者など様々な人たちと関わる場や機会を大切にし、優しくしてもらったり、相手を思いやったりする体験を通し、自分とは異なる年齢の人への関心を高めましょう。自分の成長を自覚したり、自分や相手を大切にしたりする気持ちを育てることにつながります。

☆してほしいことを言葉で伝える（p20、p32も参照）

- ・何か困ったことがある時には、言葉で伝えられるように、状況に応じて援助しましょう。
- ・クラスの友達や保育者、友達の保護者など、いろいろな人と親しみをもって関わることを重ねる中で、場面に応じた挨拶をする、相手に合わせた言葉遣いを考えるとといった行動を意識できるようにしましょう。

☆地域とのつながり

- ・園や地域の行事での交流などを通して、地域の人たちと関わる機会をつくり、関わりを深めていく中で、見守られている安心や地域への親しみを感じられるようにしましょう。
- ・図書館などの地域の公共施設を利用して、公共の場での振舞いを知るとともに、社会とのつながりを意識する機会をつくりましょう。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆情報の活用

- ・子どもが関心をもっていることについて、情報を活用できるよう、絵本や図鑑、新聞やインターネットなどの情報を、遊びに取り入れやすい形にして提供するなど援助しましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・家庭でも図書館などの公共施設や公共交通機関を利用する機会をつくり、場所や状況に応じて行動する経験の積み重ねを大切にしましょう。

### 【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 担任との信頼関係を深め、安心して学校生活を送ることができるようになる。**
- 学校生活全般を通し、様々な立場の人と接することで、場や状況に応じた話し方をしたり適切な行動をしたりすることができるようになる。**
- 自分の状況を言葉で表現し、困っていることや分からないことを伝えたり聞いたりできるようになる。**
- 地域の人たちと関わったり公共の施設を利用したりする経験をすることで、安心して生活したり自分の住む地域に親しみをもったりできるようになる。**
- 好奇心や探究心が高まり、興味をもったことについて身近にあるものから情報を得て、活用できるようになる。**

↓ 具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎**担任との信頼関係を築き、思いを伝える** → 学校生活の中で、困ったり分からないことがあったりした時は、自ら担任に伝えたり、尋ねたりすることができる。

### 4月期から行う指導

#### ☆担任との関わり

- ・入学当初の不安な気持ちに寄り添い、子どもの様子を温かく見守る。
- ・子どもが安心感をもって1日をスタートできるよう、朝の時間の読み聞かせや運動などは、担任も一緒に楽しむようにする。
- ・子どもに寄り添い、信頼関係を築きながら、一人一人の実態を把握する。

#### ☆身近な人との関わり

- ・学校の生活は様々な人たちに支えられていることを知り、楽しく安心して生活できるきっかけをつくるため、学校探検などで担任以外の職員（校長・副校長、養護教諭、主事など）と関わる機会を設ける。
- ・上級生へのあこがれや親しみを育てるため、児童集会など異年齢で楽しく交流する活動を行う。
- ・登下校の安全を見守ってくれる方たちとの関わりを通して、地域に支えられていることを感じられるようにする。

#### ☆してほしいことや、分からないことなどを言葉で伝える（p21、p33も参照）

- ・してほしいことや分からないことなどについて、言葉で表現できるように、状況に応じて、担任が言葉を添えるなどの支援をする。

### 5月期から取り入れる指導

#### ☆関わりを通して育つ

- ・公共物の存在やそれを利用または管理する人に気付かせ、地域への親しみを育てるため、公園など学校の外での活動の機会を設ける。
- ・場や状況に応じた話し方や行動を学ぶため、上級生や職員と関わる機会を設ける。

#### ☆情報の活用

- ・教科書や図鑑、新聞やインターネットの情報などを、分かりやすい形にして授業に取り入れる。子どもが自分なりに情報に気付き、活用できる環境を整える。

### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・様々な人との関わりにより、コミュニケーション力が身に付きます。家族だけでなく、地域の方々などと楽しく関わる機会を作り、場に応じた言葉づかいやマナーを身に付けることができるようにしましょう。
- ・誰にでも気持ちのよい挨拶ができるように、大人が手本となって実践しましょう。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 身近な事象に意欲的に関わる中で、気付いたり、疑問に思ったり、感じたりするようになる。
- 興味・関心を広げたり深めたりする面白さや楽しさを知るようになる。
- 友達の様々な考えに触れる中で、自分とは違う考えがあることを知り、自分で判断したり考え直したりして、新たな考えを生み出す喜びを味わうようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎意欲的に関わる → 興味をもったことに向かって、考えたり、繰り返し試したり、意欲的に取り組んでいる。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆遊びや生活の中で考えたり、試したり、工夫できる環境

- ・遊びの中で、試行錯誤しながらも満足いくまで楽しめる時間と遊ぶ場所を確保することや、様々な物の感触、特徴を感じ取れるような環境（物）を準備しましょう。
- ・様々なイメージを表現するための素材や材料を準備し、子どもが自分で取り出しやすい環境を用意しましょう。物の特性や仕組みを生かした環境を整え、子どもが自分から関わられるようにしましょう。

☆知的好奇心を高める

- ・気付きや発見といった子どもの思いを受け止め、共感したり、「なぜ?」「それから?」など問いかけたりするなど、言葉のやり取りを意識して行い、法則性に結びつくようにしましょう。

☆遊びや生活に意欲をもって取り組む

- ・与えられた課題を自分の課題として受け止め、自分の力で解決しようと子ども自身が考えることが大切です。また、励ましたりヒントを与えたりするなどの援助を工夫しましょう。
- ・子どもの発達に合わせて「うまかった」「うまくできた」「うまくなりたい」と感じられる環境を整え、子どもを急がせたり、無理に待たせたりすることがないようにしましょう。
- ・生活や遊びの中で、自分だけでは解決できないことがあった時に、他の人に聞いたり、その考えのよさに気付いたりして、新しい考えを生み出す喜びを味わえる機会をつくりましょう。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆集中して取り組む、根気強く取り組む

- ・保育者の話を聞いて、自分でしなければならないことが分かり、見通しをもったり、周囲の状況を判断して行動したりするなど、自ら進んで取り組めるようになることが大切です。
- ・クラス全体やグループで共通の目的や課題に向かって取り組む機会をつくりましょう。一人一人が力を発揮し、相手の主張に共感したり、意見をぶつけ合ったり、譲ったりしていく中で、最後までやり遂げたという満足感が味わえるような経験を積み重ねていくようにしましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・生活のリズムは、子どもの集中力を高めるために大切です。起床・就寝・食事の時間を子どもの側に立って、改善し、規則正しい生活ができるようにしましょう。
- ・子どもが自分なりに解決しようと試行錯誤していることを、大人が先回りをして言葉をかけたり、手助けをしたりしないようにしましょう。

### 【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 各教科の学習活動や教科書に興味をもち、**学ぶ意欲をもつ**ようになる。
- 教科書や黒板を見て学習内容に興味をもち、**理解する**ようになる。
- 自分の考えを自分の言葉で相手に伝えるように話したり、書いたりするようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎**意欲的に取り組む** → 学習に興味や関心をもって、考えたり、繰り返し試したり、意欲的に取り組むことができる。

### 4月期から行う指導

#### ☆各教科の学習について知る

- ・小学校で学習する教科の名前や、教科書やノートなどの必要な物を知らせ、自分で準備ができるように指導する。

#### ☆興味や関心をもって学習する

- ・この時期の子どもの発達の特徴に配慮して、10分から15分の短い時間で時間割を構成したり、子どもが自らの思いの実現に向けた活動をゆったりと進めていけるように、学習活動を2時間続きで設定したりするなどの工夫をする。
- ・基本的な聞き方（目や耳や心）や話し方の掲示物を用いながら繰り返し丁寧に指導する。

### 5月期から取り入れる指導

#### ☆時間割を意識して学習する

- ・時間割や1日の学習予定の掲示などにより、次の学習に興味をもち、自ら進んで学習の準備ができるように工夫する。
- ・生活科を中心に合科的・関連的な学習活動をしなが、45分間継続して1つの教科の学習ができるようにする。
- ・休み時間との区切りの合図を聞いて自ら判断し、気持ちを切り替えて行動するように指導する。

#### ☆学習意欲を高める

- ・学習の中での発見や解決した喜びを共有できるように、グループ学習や協同学習を行う場を設定する。
- ・自分で考えて問題を解決する態度を育てるため、自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたり、試したり繰り返したりする体験を重ねることができるよう工夫する。
- ・宿題を出し、学習の楽しさを感じさせながら、家庭学習の習慣が身に付くように指導する。
- ・身の回りにある具体物を用いた活動（おはじきやどんぐりを使って、たし算・ひき算を考える 色鉛筆で仲間分けをするなど）や、日常生活と結びついた活動（国語：挨拶、言葉遣い 算数：身近にある物の長さ比べ、時計を読む 体育：身支度、体育着をたたむなど）を取り入れるなどして、子どもが学習に興味・関心を持って、主体的に関われるよう工夫する。

### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・お便りや時間割を見て一緒に準備をし、次の日の学習への期待感を高めましょう。
- ・互いに目を見て子どもの話を聞いたり、子どもに話したりしましょう。
- ・子どもが話す時は、単語ではなく文章で話すように促したり、うまく話せない時は大人が正しく話したりして、手本を示しましょう。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 季節の変化や自然現象に興味・関心を持ち、考えたり、試したりするようになる。
- 自然の不思議に気付き、伝え合ったり、図鑑で調べたり、遊びに取り入れたりするようになる。
- 身近な動植物の世話などを通じ、生命の大切さや生き物の体の仕組みに気付いたりするようになる。

↓ 具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- 季節の変化や自然に興味・関心をもつ → 自然の不思議さ（空や雲、日差しの変化、紅葉や落葉、身近な昆虫などの生き物など）に気付き、伝え合ったり、図鑑で調べたり、遊びに取り入れている。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆季節の変化を感じる

- ・季節の変化を感じられる自然現象（さわやかな風、空や雲の様子、日差し、梅雨、暑さ、水の心地よさ、紅葉や落ち葉、風の冷たさ、雪、霜柱など）との出会いを大切に、保育者に感動を伝えたり、子ども同士で気付きや思いを伝え合ったりする機会となるようにしましょう。
- ・季節の変化に対応した遊び（シャボン玉、色水遊び、船作り、落ち葉や木の実を使った製作、たこあげ、雪遊びなど）が生まれるよう、環境をつくりましょう。伝統的な遊びに関心をもつことにもつながります。
- ・季節ごとに、自然事象をテーマにした歌を歌ったり、本を読んだりすることで、季節の変化への興味・関心が高まります。

☆自然物と触れ合う

- ・水、砂、泥、雑草、摘んでよい花、木の実などの自然物を、遊びに取り入れられる環境を整えましょう。
- ・春から夏にかけては、成長を楽しみにできる植物（アサガオ、ヒマワリ、野菜の苗など）秋から冬にかけては根の様子や芽の出る様子を見ながら世話ができる水栽培（ヒヤシンスやスイセンなど）を用意し、年間を通して植物との触れ合いがもてるようにしましょう。
- ・成長の過程を楽しみながら、花・実の色や形、種などへの興味・関心が高まるようにしましょう。

☆小動物や虫と触れ合う

- ・生き物への興味・関心高め、子どもたちが生態や生命の大切さに気付いて話題にできるような身近な生き物（カブトムシ・チョウ・カマキリの幼虫、ダンゴムシ、オタマジャクシ、メダカなど）を飼育し、観察できるようにしましょう。
- ・子どもたちが興味をもったり疑問を感じたりした時に、すぐに調べられるよう、図鑑や絵本を手に取りやすい位置に用意しておきましょう。



年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆春の訪れとともに進級・入学する喜びを感じる

- ・春に花が咲く植物の種まきや苗植え、球根植えを行い、春の訪れを実感させながら、自分たちが成長した喜びを味わうことができる環境を整えましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・親子で自然に触れる機会を多くもち、自然の美しさや不思議さ（花を育てる、動物と触れ合う、星空を見上げる、夕陽を見るなど）を体験できるようにしましょう。

### 【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 季節の変化や自然現象に興味・関心をもち、考えたり、試したりするようになる。
- 身近な自然の変化や不思議さに関心をもち、理解するようになる。
- 身近な動植物の世話などを通じ、生命の大切さや生き物の体の仕組みに気付き、理解するようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎季節の変化や自然に興味・関心をもつ → 草花の世話や、小動物や昆虫などの飼育を通して、成長の変化や生命の大切さに気付き、大切にすることができる。

### 4月期から行う指導

#### ☆入学直後の学校の春を十分に味わう

- ・桜やチューリップなどのたくさんの花や、小さな虫、温かい風など「春」を体全体で感じ、担任や友達に感動を伝えたり、絵や言葉で表現したりする機会を設ける。
- ・校庭で見つけた「春」について、面白かったり気付いたりしたことを発表し合い、興味・関心を深める機会を設ける。
- ・子どもたちが幼児期に草花で遊んだ経験を出し合い、友達と一緒に校庭の草花で遊び、楽しさを共有できるようにする。
- ・これからの春・夏・秋・冬の自然の変化に敏感になれるように、花が散った様子や葉が茂っていく小さな変化を見逃さないようにする。

#### ☆学校にいる生き物に関心をもつ

- ・学校で飼っている動物や校庭にいる虫などに興味をもち、生命の不思議さや大切さに気付いたり、生き物の体の仕組みに気付いたりできるように、観察したり飼育したりする。
- ・動物の変化や発見を言葉や絵で表現し、学級のみinnで共有する機会を設ける。



### 5月期から取り入れる指導

#### ☆アサガオなどの世話をする

- ・「自分のアサガオ」という意識をもち、責任をもって楽しみながら世話ができるようにする。成長の過程を楽しみながら、発芽の様子、葉や花の色や形、種などについて興味・関心が高まるよう工夫する。
- ・子どもから発せられた小さな発見を全体に広げ、みんなで共有していく機会を設ける。

#### ☆諸感覚を生かして自然を味わう

- ・見る、聞く、触る、嗅ぐなど、たくさんの感じ方を味わえる体験を取り入れる。

### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・大人が興味を示すことで子どもも自然に興味をもつようになります。家庭でも小さな自然と一緒に楽しみましょう。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 遊びや生活の中で子ども自身の必要感に基づく体験を通して、**数量や図形、標識や文字への興味、関心、感覚をもつようになる。**
- 遊びや生活の中で必要性を感じて**数字や文字を書くようになる。**
- 身近な物や遊具、**数字や文字に関する環境に興味をもって関わり、比べたり、関連付けたり、工夫して遊ぶようになる。**



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- ◎数量や図形、標識や文字に **興味・関心をもつ** → 自分の名前など、文字に興味をもち、生活や遊びに取り入れたり読んだりしている。10くらいを目安に数を数えたり、比べたり、分けたり、順番を理解している。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆日常生活の中で、数量や図形の感覚を身に付ける

- ・時計やカレンダーなどを見たり、読んだりする生活体験を通して、数字を読むことや数字の順番を知ることへの興味・関心が高まるようにしましょう。
- ・手紙や材料、用具などを配ったり、片付けたり、物を分けたり、比べたり、並べたりするなど、生活の中で必要性を感じながら、数を数えたり、形や量に気付ける機会をつくりましょう。
- ・本は「冊」、車は「台」で数える、また「大きい・小さい」「長い・短い」「高い・低い」「多い・少ない」「広い・狭い」「重い・軽い」などの大きさや長さ、量などを表す言葉は、保育者が正しい使い方を示すことが大切です。

☆生活や遊びの中で文字に対する感覚が豊かになる

- ・生活や遊びを楽しむ中で、標識や文字に関心を持てるような環境を工夫しましょう。(例 標識やマーク、ひらがなを題材にした絵本、標識や五十音の一覧表、文字スタンプ、カルタ、しりとり、なぞなぞ遊びなど)
- ・文字を使って、思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさが味わえる体験をさせていきましょう。
- ・文字は子どもが遊びの中で必要な時、書きたいと思った時にいつでも書くことができるように、発達に合わせて、クレヨン、ペン、鉛筆、消しゴム、紙などを準備しておきましょう。

☆遊びの中で、数量や図形、文字を学ぶ

- ・どんぐりや落ち葉を拾ったり、芋掘りをしたりした喜びの中で、数をかぞえたり、形や大きさの違いに気付き、対象物に十分関わられるようにしましょう。
- ・玉入れやリレーなど、遊びの中で人数を調整したり、得点を付けたりすることの必要性に気付くようにしましょう。
- ・積み木の構成や空き箱製作、影絵、紙版画など、多様な教材・教具・遊具との豊かな関わりの中で、物の形や仕組みに気付き、遊びに生かせるようにしましょう。
- ・係活動の内容やメンバーの名前、月日、曜日、天気、用紙や用具を片付ける場所など、文字による表示を理解して活用する中で、文字への関心を高めていけるようにしましょう。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆どのくらい、どんな形、どの場所(「前後」「上下」「左右」)の感覚 生活の中の文字

- ・自分が必要なものを求める時や必要なことを伝える時に、ものの数量や形状、ある場所など、相手に分かるように言い表すことができるように促しましょう。
- ・自分の名前を読んだり、書いたりする機会をもつようにします。その際、なるべく丁寧に書かせるようにすることが大切です。文字に興味をもち、「作品に名前を書く」「遊びに必要な文字を書く」など必要性を感じることで、より意欲的に取り組めるようになります。
- ・鉛筆など筆記用具の正しい持ち方について、一人一人の状況を受け止め、丁寧に指導しましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・文字や数に興味をもち、「教えて」と、問われた時が身に付けるチャンスです。
- ・絵本の読み語りには、文字への興味・関心を高める機会となります。

### 【小学校生活を通して育てほしい姿】

- **文字や数字に興味をもち、音読や読書をしたり、身近にある数字を読んだり数えたりするようになる。**
- **正しい鉛筆の持ち方で、興味をもって文字や数字などを書くようになる。**
- **正しく数を数えたり、加法や減法の計算をしたりすることに、興味をもって取り組むようになる。**



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を評価しましょう。

- ◎ **文字や数字に興味・関心をもち** → 10がいくつといくつでできているのか分かる。板書を一定時間に連絡帳に書き写したり、物語の場面の様子を想像しながら楽しんで読んだりすることができる。

### 4月期から行う指導

#### ☆文字に興味をもって、正しい鉛筆の持ち方で書いたり、読んだりする

- ・文字への関心を高めるため、自己紹介などで名前を書いたり、友達の名前を読んだりする活動に取り入れる。
- ・書くことへの興味を高めるため、様々な場面で、生活や学習に必要な掲示や表示を子どもと一緒に作成するなど工夫する。
- ・掲示物などを使って、正しい鉛筆の持ち方、音読の時の声の大きさなどを意識できるようにする。

#### ☆正しく数を数えたり、数字を書いたりする

- ・数への関心を高めるため、算数で仲間分けをしたり、数えたりできるよう指導する。
- ・正しい数字を意識するよう、正しい書き順や形で数字を書くモデルを示す。
- ・数への理解を深めるため、数字カードやブロック（おはじき）を使ったり、ゲームをしたりする。

### 5月期から取り入れる指導

#### ☆文字を読むことに興味をもち、音読や読書をする

- ・文字や言葉を正しく書き写すことが身に付くように、連絡帳やノートを活用する。
- ・読み聞かせや図書の時間などの読書を通して、文字を読むことの楽しさを味わえるようにする。
- ・音読の宿題を出したり、教室で音読したりしながら心地よい発声の仕方で正しく文字を読むことを身に付けられるよう指導する。教師は話し方、読み方のモデルであることに留意する。

#### ☆数への関心を高める

- ・上下、前後、左右など、子どもが生活の中で体験している場面を使って順序を正しく表し、集合数との違いに気付くように工夫して指導する。
- ・数についての感覚を豊かにするため、ゲームやブロック（おはじき）操作などを通して10までの数の足し引きを視覚的に学ぶようにする。

#### ☆いろいろな形に親しむ

- ・形に親しむため、絵を描いたり、折り紙や粘土、集めた空き箱などでいろいろな形を作ったり、「さんかく」「しかく」などの言葉で表したり工夫して指導する

### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・宿題をがんばっていることを、褒めたり励ましたりしながら、進んで学習する意欲を高めましょう。
- ・教科書の音読だけでなく、絵本の読み聞かせをしたり、お子さんに絵本を読んでもらったりすることは文字を読むことの楽しさを感じさせるチャンスです。



【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 絵本や物語、詩などに親しみ、想像する楽しさを味わったり、言葉の面白さに興味をもったりするようになる。
- 言葉の響き、リズム、美しさなどに気付き、豊かな言葉や表現が身に付くようになる。
- 友達や保育者に自分の気持ちや思いを聞いてもらったり、相手の話を聞いて理解したりする中で、互いの心を通わせ、言葉での伝え合いを楽しむようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- 言葉で伝え合う → グループで目的をもって取り組む活動の中で、自分の意見を言葉で伝えたり、友達の話聞いて理解しようとしていたりしている。

年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆読み語りを楽しむ

- ・絵本や物語などの読み語りの時間を大切にし、物語の楽しさを実感できるようにしましょう。
- ・選書にあたっては子どもの実態や行事・季節などを考慮し、活動や遊びのイメージを広げるもの、生活習慣の確立につながるもの、規範意識に関わるもの、友達との関係を考えるものなど、子どもの興味・関心を広げ、新たな価値観を形成していける作品を意図的・計画的に紹介できるようにしましょう。
- ・リズム感のあるフレーズをみんなで復唱したり、ストーリーに沿って動きの表現をしたりするなどの工夫をし、言葉の感覚を高める、意味を知るなどの機会となるようにしましょう。

☆本を読む（見る）

- ・地域図書館を利用したり、小学校との交流活動の一環で近隣の学校の図書室（学校の図書室には、多くの絵本、図鑑類が整えられています）を利用したりするなどして、地域の資源を活用しましょう。園にある本に親しむほか、多くの本に触れ、手にとって見る機会になります。

☆伝えようとする気持ちを育む（p20、p24も参照）

- ・受容的な態度や共感する姿で、話を聞いたり問いかけたりしましょう。子どもたちにとって、望ましいコミュニケーションのモデルとなります。
- ・保育者と子どもが対話をしながら心を通わせ、子どもの表現を補い、ふくらませていくことで、考えがより伝わりやすくなる体験ができるようにしましょう。
- ・担任とだけでなく園内の他の職種の大人や地域の様々な大人と関わる機会をもち、うまく伝わらずに困ったり、試行錯誤して伝えようとする姿を捉え、保育者が一緒に考えたり、助言をしたりして伝わる心地よさにつなげましょう。

☆言葉遊びを楽しむ

- ・子どもたちが、言葉の面白さや掛け合いの楽しさに触れることのできる「言葉遊び」を、年間を通して取り入れましょう。
- ・かるた、しりとり、早口言葉、数え歌、なぞなぞ遊びなど、いろいろな種類の言葉遊びを体験させ、子どもたち同士の遊びの中にも広がるようにしましょう。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆生活や遊びの中で、子ども同士で話し合う（p20も参照）

- ・クラス全体やグループで目的をもって取り組む活動を取り入れ、子どもたちの力で解決にたどり着けるよう、話し合いを進める過程を大切にしながら提案や助言をしましょう。
- ・話し合いでは、何について話し合うのか分かりやすく示して、子ども自身が気付いたり、意見が言いやすくなったりするようにしましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・絵本の読み語りや、親子のつながりを深めるとともに、子どもに知的な育ちを促します。
- ・日常のさりげない言葉のやりとりを大切に、言葉を使う楽しさを感じられるようにしましょう。

### 【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 言葉による多様な表現を楽しむようになる。
- 生活や学習の中で、友達と互いの思いや考えを言葉で伝え合い、共感的に受け止めたり、認め合ったりするようになる。
- 自分の伝えたいことを、相手の状況に応じて言葉を選んで伝えようとするようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎**言葉で伝え合う** → 学級全体で一つの課題について話し合う中で、自分の意見を相手に伝わるように話したり、友達の話を聞いて理解したりできる。

### 4月期から行う指導

#### ☆自己紹介などを通して友達の名前を覚える

- ・自分の名前や友達の名前が少しずつ覚えられるよう、自己紹介の機会を設ける（ひらがなを習ったら、その字の付く友達を紹介して、学級のみinnで名前を呼び合うことも効果的）。
- ・しりとり遊びなどをして語彙を増やすように工夫して指導する。

#### ☆自分のことや友達のことを言葉で表現する（p21、p25も参照）

- ・自己紹介などで好きな物を発表する時には「なぜそれが好きなのか」という理由を、簡単な言葉で表現することを繰り返し指導する。
- ・友達との関わりでうまく伝わらない時には、担任が状況に応じて言葉を添えるなどの援助をする。また、対応にあたっては、他の子どもに今までの経験を聞き、一人一人に応じたやり方をみんな決めていくようにする。
- ・担任以外の職員や地域の方たちと関わる中で、相手の状況に応じて言葉を選んで伝えられるように指導する。

### 5月期から取り入れる指導

#### ☆習ってきたひらがなが使えることを楽しむ

- ・少しずつ習ったひらがなも増えてくるので、習ったひらがなの付く「言葉探し」をしてみんなに発表したり「連想言葉遊び」をしたりして、言葉を楽しむようにする。

#### ☆音読や読み聞かせをして言葉を楽しむ

- ・教科書の「あそびうた」や短い文章を繰り返し読み、言葉を楽しむようにする。
- ・動作を付けたり、リズムを変えたりして楽しみながら読むよう留意する。

#### ☆生活や学習の場で、子ども同士で話し合う（p21も参照）

- ・学級全体やグループでの活動内容について話し合う中で、自分の体験や考えが友達に伝わる喜びや友達の考えが分かる楽しさを感じられるように促す。
- ・自分から発言ができない子どもには、話すきっかけをつくり、他の子どもとの会話につなげるために質問するようにする。

### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・遊びを通してひらがなへの興味を深めていけるように言葉遊びなどをしましょう。
- ・子どもが話したい時に聞いてあげられる心の余裕をもちましょう。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 心を動かす出来事（美しい、優れたものなど）に触れ、見たこと、したこと、聞いたこと、感じたことなどを自分なりの方法（言葉、手振り、音楽、造形、体の動きなど）で伸び伸びと表現するようになる。
- 身近にある素材や用具の特徴に気付き、必要なものを選んで、考えたり工夫したりして、自分なりの表現を楽しむようになる。
- 友達と共通の目的をもって表現することを楽しみ、表現する喜びを味わうようになる。



具体的には次のような観点で、5歳児の6月と12月を目途に評価しましょう。

- 感じたことを自分なりの方法で → 見たこと、聞いたことや感じたことを、製作活動や合奏、劇遊びなどで表現している。



年間を通して、このような取り組みを進めていきましょう

☆意欲的に表現しようとする

- ・子どもが身近な環境に関わる中で、自己表現しようとする意欲を受け止めましょう。
- ・子どもが感じたことや思いに共感し、表現の方法が分からないなど困っている時は、表現したいイメージに生かす方法を助言したり提案したりしましょう。

☆様々な表現を楽しむ

- ・様々な教材の特性を生かして表現（製作・音楽など）を楽しめるよう環境の工夫をしましょう。

【製作活動】

- ・材質の違いや特性を知ること、自分の目的やイメージに合った道具や素材を選ぶ力を育みます。
- ・これまで経験してきた教材や道具は、いつでも使えるようにしましょう。（例 絵本・楽器・クレヨン・絵の具・色鉛筆・マーカー・糊・テープ類・はさみなど）
- ・子どものイメージが表現できるよう、遊びに必要な様々な素材や材料を子ども自身で自由に選択し、使えるように環境を整えましょう。例 自然の物・折り紙、厚紙、ダンボールなど材質の違う紙類・ビニール・空き箱など

【音楽活動】

- ・音の面白さや美しさ、リズムや強弱などを感じながら、楽器や歌を楽しむ機会をつくりましょう。
- ・季節の歌や行事の歌、童謡など、伴奏に合わせて歌う活動を通じて、歌声が揃う楽しさや心地よさ、友達と心を合わせて演奏する楽しさが味わえるようにしましょう。

年度の後半からは、このような取り組みを進めていきましょう

☆みんなで一つのものを表現する

- ・クラス全体やグループで取り組む活動として、共同製作や劇遊び、合奏など、共通の目的に向けて、互いに自分なりのイメージや思いを出し合いながら取り組む機会をもちましょう。こうした活動を通して、刺激し合い、力を合わせてやり遂げた達成感を味わえるようにしましょう。

家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・子どもの表現を価値あるものと受け止め、子どもが表現する喜びを実感できるようにしましょう。

### 【小学校生活を通して育てほしい姿】

- 自分の気持ちや願いを安心して表現し、意欲的に学校生活を進めようとするようになる。
- 自分のイメージしたことを、様々な素材や用具を選んで描いたり作ったりして、楽しむようになる。
- 自分なりの表現や楽しさを、担任や友達と受け止め合いながら、一緒に表現する楽しさを味わうようになる。



具体的には次のような観点で、1年生の夏休み前頃を目途に評価しましょう。

- ◎感じたことを自分なりの方法で表現する → 見たことやイメージしたことを、音楽や造形、身体表現などを通して、伸び伸びと表現できる。

### 4月期から行う指導

#### ☆安心して表現しようとする

- ・その子らしい表現で自分を表そうとしたことを受け止め、認めるようにする。
- ・自分から表現することに不安を示す子どもには、教室の中で安心感がもてるような配慮をし、その子どもがありのままに表現する姿を受け止めるよう留意する。

#### ☆さまざまな表現を楽しむ

- ・学校探検で気付いたことなどを、絵や言葉で表現したり、友達と伝え合ったりするようにする。
- ・校庭で見つけた「春」や遊んで楽しかったことを絵に描いたり、歌ったりするようにする。
- ・歌や手遊びなど、子どもたちが幼児期に遊んだことのある曲を選び、みんなで共有・共感しながら楽しむ機会を設ける。
- ・子どものつぶやきを聞いたり行動をよく見たりして、子どもが表現したいという願いを実現するための準備をする。



### 5月期から取り入れる指導

#### ☆みんなで表現する楽しさを味わう

- ・友達の作品を見たり、自分の思いを伝えあったりすることを楽しむため、学級の全員の作品を教室に貼る。
- ・子どもたちの幼児期の体験の中から、イメージが共有できる題材を選び、グループや学級全体で表現することを通して、互いのよさを認めたり、自分の役割を果たしたりする経験につなげる。

### 家庭へはこのようなことを発信していきましょう

- ・気持ちを表現することが楽しいことと思えるように、その子なりの表現を認め、他の子どもと比べないようにしましょう。
- ・表現したい時は、心が動く時です。心を動かす経験をたくさん重ねましょう。